

1	組織名称(略称)	Kantara Initiative (Kantara) http://kantarainitiative.org/			
2	分類	活動目的	実装仕様化・相互接続性検証	対象分野	サービス(インターネット関連)
	技術MAP	活動エリア(注1)	0	活動技術(注2)	0
3	目的	三つのID管理技術の相互運用を目指す業界団体。三つのID管理技術とは、(1)「OpenID」(2)「SAML」(security assertion markup language) (3)「Information Card」を指す。日本でもカンターラ・イニシアティブの設置を受けて、国内事情を考慮するための組織である「ジャパン・ワークグループ」と「ジャパン・ディスカッショングループ」が発足した。異なるID管理フレームワークやプロトコル、仕様を推進する各種プロジェクトと連携し、エンドユーザーの利便性やセキュリティ、プライバシー保護を確保する標準技術を確立するのが目的。			
4	組織構成	Work Groups <ul style="list-style-type: none"> •Blockchain and Smart Contracts DG •Consent and Information Sharing WG •Digital Identity Professionals DG •eGovernment WG •Federation Interoperability WG •Health Identity & Assurance WG •Identities of Things DG •Identity Assurance WG •Identity Relationship Management WG •Open Trust Taxonomy for OAuth2 •User Managed Access WG •User-Managed Access Developer Resources WG 			
5	参加資格費	Kantara Initiative Membership Levels会費(年間 US\$) Membership Level* IC EDU NP L0 L1 L2 L3 Director □ 16,500 □ 16,500 □ 16,500 □ 16,500 □ 20,000 □ 33,000 □ 55,000 Member □ 150 □ 250 □ 500 □ 2500 □ 7,500 □ 15,000 □ 22,000 *Level定義 IC = "Individual Contributor" = an individual ※個人 EDU = "Educational" ※教育機関 NP = "Non-Profit" = any non-governmental non-profit organization L0 = "Level 0" = 1-100 employees L1 = "Level 1" = 101-1000 employees L2 = "Level 2" = 1001-25000 employees L3 = "Level 3" = more than 25000			
6	主要メンバー(2017年4月現在) (注3)	主要メンバー:・Board 7社 ForgeRock, Computer Associates (CA), Experian, Internet Society (ISOC), Nomura Research Institute (NRI), Secure Key, digi.me うち日本企業:1社(NRI) 会員数:38社 うち日系企業数:2社(NRI, 学術認証フェデレーション)			
7	他団体・組織との関係	リエゾンなど EEMA(European Association for e-identity and security) PDEC(Personal Data Ecosystem Consortium) DIACC(Digital Identity and Authentication Council of Canada) OCG(Open Consent Group Ltd) NATE(National Association of Health Exchange) FuGen Solutions SAFE-BioPharma EHNAC(The Electronic Healthcare Network Accreditation Commission) IDESG(The Identity Ecosystem Steering Group) Direct Trust			

		ISO SC 27 N10363 ITU-T SG17
8	TTC活動との 関連性	<input checked="" type="checkbox"/> TTCの専門委員会活動と関係あり <input type="checkbox"/> セキュリティ専門委員会 <input type="checkbox"/> なし
9	活動状況	Press Releases (http://kantarainitiative.org/category/pr/) ・April 5, 2017 KantaraはEUのプライバシーと共にGDPR(General Data Protection Regulation: EU一般データ保護規則)の問題にも取り組みます。 ・April 4, 2017 Kantara Initiativeは、EUに加盟していない政府および企業のメンバーが汎欧州管轄区域のデジタルID、信用、プライバシーポリシーに参加するのを支援するために欧州信託基金に加わったことを発表した。 ・March 15, 2017 ユーザー管理アクセスワークグループは、OAuthとOpenID ConnectとのUMAの整合性を向上させるためのロードマップ目標を設定し、UMAの設計を簡素化してIoTの事例を解決し、広範囲のエコシステムに対応できるようにした。 ・March 9, 2017 認証の専門家集団がIDシステムの構築を目指して非営利団体を設立 ・November 16, 2016 KantaraとEEMA(European Association for E-identity and Security)は相互理解のためのMoUをISSE Innovation Expoで締結 ・November 8, 2016 KantaraのエグゼクティブディレクターColin Wallisがロンドンのヴィクトリアパークプラザホテルで開催されるIdentity Management 2016 Conferenceでスピーチ。 ・October 26, 2016 Kantara InitiativeとPersonal Data Ecosystem Consortium (PDEC)はMoUを締結すると発表した。 ・October 12, 2016 digi.meの創設者兼執行役員ジュリアンレンジャーが世界のアイデンティティ専門家であるKantara Initiativeの理事会に招聘された。
10	設立時期	2009年6月17日
11	本部所在地	401 Edgewater Place, Suite 600 Wakefield, MA 01880 USA
12	関連標準化技術	Kantaraでは以下の三つのID管理技術を扱っている (1) OpenID 1つのIDを複数のインターネットサイト上で無料かつ簡単に使うための仕組み (2) SAML (Security Assertion Markup Language) 異なるインターネットドメイン間でユーザー認証を行うためのXMLをベースにした標準規格 (3) Information Card 情報が異なる複数のIDを一人のユーザが管理し、用途によって使い分けるWindows UIベースの認証方式
13	備考	OpenIDはYahoo!, Google, mixi, 楽天などで採用されている。 SAMLは大企業のシステムや電子政府などに使われている。 Information CardはWindows Liveで採用されている。 Bylaws https://kantarainitiative.org/wp-content/uploads/2017/05/Kantara-Initiative-Inc_Bylaws_05032017_FINAL.pdf IPR Policy https://kantarainitiative.org/about/ipr/
14	更新年月	2017年10月

(注1)活動エリアは以下から最も適当な項目を選択し、その番号を記入のこと。

- 2: モバイル系領域を中心に活動を実施
- 1: モバイル系領域の活動を主に、固定系領域の活動も実施
- 0: モバイル系、固定系の両領域にまたがって活動実施
- 1: 固定系領域の活動を主に、モバイル領域の活動も実施
- 2: 固定系領域を中心に活動を実施

(注2)活動技術は以下から最も適当な項目を選択し、その番号を記入のこと。

- 3: APL(アプリケーション)領域の活動を実施
- 2: APL領域の活動を主に、MDL(ミドルウェア)領域の活動も実施
- 1: APLとMDLの両領域の活動を実施
- 0: MDL領域の活動を実施
- 1: NW(ネットワーク)領域の活動を主に、MDL領域の活動も実施
- 2: NW領域の活動を実施
- x: 該当せず等

(注3)日系企業とは親会社が日本企業かどうかで判断する。

(注4)「TTC活動との関連性」とはTTCの専門委員会の活動と関連しているかを示す記載とし、理由には具体的な専門委員会名と関連している部分等を記載する。